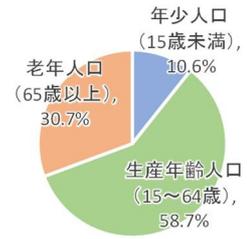


	世帯数	人 口	年 齢 別 人 口
現 在	343 世帯	912 人	15 歳未満 (年少人口) 97 人
			15～64 歳 (生産年齢人口) 535 人
			65 歳以上 (老年人口) 280 人
約 50 年前	191 世帯	850 人	



歴史等

桜上池東岸では旧石器時代のナイフ形石器、大門岡ノ下遺跡からは縄文時代晩期の住居跡や石棒、石皿等の石器類や縄文土器等が見つかり、縄文時代には既に人々が暮らしていたことが知られています。

地名の由来は、江戸時代の地誌『播磨鑑』に天台宗神積寺の「大門ノアト有」とあるように、同寺の山門があったことによります。古くは田原村と称し、慶長6年(1601)の検地で大門と改称し、延宝3年(1675)に加治谷村を分村しました。

古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、大庄屋組では、はじめは大貫組、慶安元年(1648)から川辺組、元文2年(1737)からは辻川組に属しました。文化7年(1810)の大門村明細帳によると、家数は76軒・人数は361人でした。大門村の水田は河岸段丘の上に位置するため、市川から引水することが難しく、多くのため池が築造されました。明治9年(1876)に東田原村の一部となりました。



大年神社



素戔鳴命大蛇退治図 (大年神社)



ピワクビ井堰記念碑



秋祭り・屋台



虫送り



池供養之塔 (大門大歳谷池)

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建築物	1	薬師堂 (万福寺)	不明	木造平屋建、瓦葺。約40年前に改修された記録が残る。所有は神積寺で、大門区が管理している。				●		
	2	石造地藏菩薩立像	南北朝時代か	石棺材を利用して刻まれた石棺仏。南北朝時代のものと考えられる。蓮華座ではなく、雲座の上に地藏菩薩が立つ珍しい石仏である。別名「タライ地藏」と呼ばれ、寝小便をなおしてくれるということでお参りの人がある。 【町指定有形文化財】				●		
建造物 石造物	3	阿弥陀三尊立像 (大門公民館横)	不明	阿弥陀三尊の石仏。				●		
	4	地藏菩薩坐像 (大門公民館横)	元文4年 (1739)	地藏菩薩の石仏。台座正面には造立年月日・施主等とともに「奉造立尊一軀」と記されている。				●		
	5	廻国塔 (大門墓地)	不明	正面に造立年月等とともに「奉納大乘妙典六十六部日本回国」と記されている。法華経を六十六部写経し、これを持って全国六十六か所の霊場に納め、国々を廻ったことを示した石塔。				●		
	6	石鳥居 (大年神社)	明治40年 (1907)	石鳥居。右柱正面には「奉納 御宝前」、左柱正面には造立年月と願主が記されている。				●		
	7	石灯籠 (大年神社)	慶応3年 (1867)	石灯籠。正面には「御神灯」と記され、基礎の正面に「村中」、背面に造立年が記されている。				●		
	8	石灯籠 (大年神社)	大正5年 (1916)	左右一対の石灯籠。右灯籠の正面に「奉」、右に造立年月、左灯籠の正面に「納」、右に造立年月が記されている。				●		
	9	石灯籠 (大年神社)	大正14年 (1925)	石灯籠。神前型。正面には「御神灯」と記され、台石の正面に「村中」、背面に造立年月が記されている。				●		
	10	石灯籠 (大年神社)	大正14年 (1925)	左右一対の石灯籠。右灯籠の正面に「奉」、背面に造立年月、左灯籠の正面に「献」、背面に造立年月が記されている。いずれも台石の正面に「総建築員」、左と背面に11名の名が記されている。				●		
	11	石灯籠 (大年神社)	不明	石灯籠。正面には「御神灯」、台石の正面には「当邑氏子中」と記されている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

大 門

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	12	石灯笼（大年神社）	不明	石灯笼。四角型。				●		
	13	手水石（伊勢神社）	寛政9年 (1797)	手水石。正面に「氏講中」、右に造立年月日が記されている。				●		
	14	手水石（古宮社（冠来神社））	弘化3年 (1846)	手水石。正面に「弘化三年年 水 氏子中」と記されている。				●		
	15	手水石（大年神社）	明治18年 (1885)	手水石。正面に「水」の文字とともに造立年月・願主が記されている。				●		
	16	狛犬（大年神社）	明治34年 (1901)	石造狛犬。				●		
	17	狛犬（大年神社）	大正12年 (1923)	石造狛犬。				●		
	18	日露役記念碑（大年神社）	不明	正面には「日露役記念」と記されている。						●
	19	池供養之塔（大門大歳谷池）	天保13年 (1842)	正面には「池供養之塔」と記されている。			●			
	20	ビワクビ井堰記念碑（大年神社横）	明治40年 (1907)	正面には「穿渠の記」の文字とともに由来等が記されている。明治14年（1881）に枇杷首疎水工事が完成した後、26年後に建立された記念碑。			●			
	21	石室（大門公民館横）	文政元年 (1818)	石室。線香台の正面に「願主 当村中 文政元 寅七月 廿三日」と記されている。阿弥陀三尊立像を安置。土台をセメントで補強してあるため、一番上の一文字ずつしか判読できない。				●		
	22	石棺底石（大門公民館横）	不明	組合式石棺の底石。				●	●	
	23	石棺底石（大門公民館横）	不明	組合式石棺の底石。				●	●	
	24	道標（大門路傍）	元治元年 (1864)	道標。正面には「従是妙徳山道」と記されている。				●	●	
	25	百度石（大年神社）	不明	百度石。「高井」の文字が記されている。				●		
	26	墓碑（大門墓地）	元禄16年 (1703)	墓碑。一石五輪塔。正面には梵字と「実□□□□」の文字が記されている。				●		
27	富士風伝造之墓	明治17年 (1884)	力士墓碑。正面には「富士風伝造之墓」と記されている。				●			
28	富士風長蔵之墓	不明	力士墓碑。正面には「富士風長蔵之墓」と記されている。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
建造物	石造物	29	富士風次作之墓	明治40年 (1907)	力士墓碑。正面には「富士風次作之墓」と記されている。						
		30	落窪地蔵	安永3年 (1774)	但馬竹田城主赤松弥三衛門広秀の家臣で、竹田城落城の後に流浪の身となり大門村にたどりついた吉田八右衛門を供養した地蔵菩薩と伝わる。万福寺境内に移設されている。						
		31	松田利吉顕彰碑	昭和30年 (1955)	西光寺野用水の桜上池入口脇に位置する。裏面に造立年月と「大門邑」の文字が記されている。						
		32	小林家墓碑(大門墓地)	寛保4年 (1744)	慶長年間から寛政年間まで180余年にわたり、代々大門村の庄屋を務めた小林家の墓碑。						
美術工芸品	絵画	33	紅葉で酒を緩める図(大年神社)	文政5年 (1822)	画家は「望旭軒玉兔」、奉納者は「当邑氏子中」とある。99×139.5cm。						
		34	素戔鳴命大蛇退治図(大年神社)	文政6年 (1823)	画家は「望旭軒玉兔」、奉納者は「当邑氏子中」とある。98×140cm。						
		35	賤ヶ岳七本槍図(大年神社)	慶応元年 (1865)	画家は「古田探漢」、奉納者は「当邑氏子中」とある。135×191cm。						
		36	銭額(大年神社)	昭和9年 (1934)	奉納者は「神戸市 古田周助・口まさ」とある。78×108.5cm。						
		37	富士の巻狩図(大年神社)	不明	奉納者は不明。124.5×155cm。						
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	工芸品	38	奉納刀(大年神社)	—	大年神社の宝物。明治時代後期、大谷池改修の時に出土したもの。田原口の合戦の遺品と思われる。この刀をみだりに持ち出す者には良くないことが起こるという伝説がある。					
			39	大門区有文書	—	124件(点数不明)。					
40			大年神社弊殿拝殿・熊野神社拝殿改築落成棟札	—	大門区蔵。総高129.2×上30.0下30.2cm、厚さ3.0cm。大正12年(1923)に竣工したことや、改築工事に携わった大工、屋根葺師(草/瓦)の名前がある。						
有形の民俗文化財	祭具	41	大年神社上棟棟札	大正14年 (1925)	大門区蔵。総高154.0×上40.5下40.5、厚さ4.0cm。						
		42	屋台(大門区)	—	布団屋根型屋台。百年の歴史を育んだ屋台を平成25年(2013)に新調。松をかたどった扇、五手先の斗組玉藻前に化けた九尾の狐を見破る井筒通し、二代目松本義廣氏の狭間等、逸品揃いの屋台。						

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

大 門

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり								
				①	②	③	④	⑤	⑥			
有形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	43	力石（大門公民館）	不明	6個。44×32×18 cm、54×41×21 cm、60×40×27 cm、47×31×27 cm、51×40×21 cm、48×43×20 cm。いずれも切付無し。				●			
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	44	秋祭り（田原）	—	田原地区の屋台12台（布団屋根型10台、神輿屋根型2台）・神輿1台が熊野神社に集まる。本宮では、各屋台が鳥居をくぐった後に拝殿前で差し上げを行い、境内を回った後、拝殿の裏を回り定位置に据えられる。屋台の宮入りが終わると境内中央の舞台上で浄舞、浦安の舞が奉納される。			●	●	●		
		45	節分・斎燈	—	2月3日に大年神社で行われる。境内に自治会役員が伐採した木材を井桁に組み、周囲に檜葉等を配した柴燈本体を作成する。厄年の者と役員が熊野神社宮司による無病息災のお祓いを受けた後、柴燈に点火し、参拝者は各家庭の注連飾り、神棚のお札、子どもの書初め等を持参して柴燈に投げ入れる。				●			
		46	花まつり	—	5月8日に万福寺で行われる。現在も伝統が受け継がれており、当番隣保の老人クラブ会員たちが、花御堂を準備し、甘茶を炊いて参拝者にふるまう。				●			
		47	夏まつり	—	「氏神さんの夏祭り」として、7月11日に大年神社で行われる。大年神社境内の熊野神社本殿で、熊野神社（田尻区）の宮司により疫病退散などの祈祷が行われる。その後、小さな桶にお湯を入れ、榊の葉でしずくを参拝者に振りかける湯立を行い、無病息災のお祓いをする。				●			
		48	虫送り	—	7月第3月曜の「海の日」に大年神社～桜上池で行われる。稲を食い荒らす害虫による被害をなくし、五穀豊穡を願う行事で、たいまつに火をつけ、実盛人形（藁人形）を先頭に村内の田を廻り歩き、最後に実盛人形を燃やして害虫駆除を行う。				●	●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり												
				①	②	③	④	⑤	⑥							
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	49	地藏盆	—	8月23日に公民館広場の西側にある地藏尊前で行われる。今から50年ほど前までは、日が暮れると老人クラブ会員を中心に西国三十三番ご詠歌を唱え、集まってきた子どもたちは遊びながら終了を待ち、終了すると、お供え物のお下がりをお供えし、事前に準備したお菓子が配られる。											
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	50	桜田遺跡	弥生時代	弥生時代の遺物の散布地。弥生時代後期の土器が採集されている。							●				
		51	大門遺跡池田地区	奈良時代～中世	旧石器時代の角錐状石器が出土したが明確な遺構は確認されていない。土坑から紐でまとめられた中国(唐)の古銭「開元通宝」が見ついている。また、同じ土坑から灯明皿と考えられる土器も出土している。建物跡らしい遺構や墓も確認されている。							●				
		52	大門遺跡皿池ノ下地区	中世	平成2年度の調査で自然河川とそれに伴う遺物包含層が確認されている。							●				
		53	大門岡ノ下遺跡	縄文時代晩期～中世	縄文時代晩期の竪穴住居跡とともに土器や石棒、石皿などの石器が見ついている。中世は神積寺の境内地であったとされ、中世の墓も検出されている。							●				
		54	桜池東散布地	旧石器時代	旧石器時代のサヌカイト製の石器が採集されているが、明確な遺構は確認されていない。							●				
	古墳・その他の墓	55	大門池ノ下古墳	古墳時代	古墳時代後期の円墳であったが、県道工事のため現在は残っていない。横穴式石室は、町内で一番大きい(長さ14m)と記録されている。墳丘の盛土から須恵器の提瓶が1点見ついている。							●				
56		大谷前古墳	古墳時代	古墳時代の古墳と考えられる。石材の一部が残る。							●					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

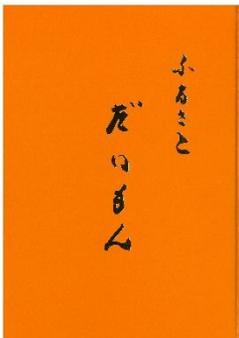
分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
遺跡 古道・街道等	57 生野鉱山寮馬車道	明治9年 (1876)	生野鉱山(朝来市)と飾磨津(姫路市)を結ぶ全長49kmの馬車道。鉱山物資等を運ぶための産業道路として、明治6年(1873)に計画し、明治9年(1876)に完成した。当時の道路構造を保つところは少ないが、現在も道路として使用され、当時の道筋を知ることができる。					●	●
	58 生野街道(但馬道)	—	姫路から但馬へと通じる南北道。道標には「但馬道」と記されているものが多く確認されるため、江戸時代には「但馬道」と呼ばれていたことが分かる。					●	
	59 北条街道	—	三木から宍粟に通じる因幡街道の道筋上にあたる東西の主要街道。絵図や柳田國男の『故郷七十年』などから当時の様子を知ることができる。					●	
名勝地	60 雲津川	—	東雲津橋の西約70mの所に「雲津川改修記念碑」がある。大正7年(1918)から改修費用を積み立て、昭和3年(1928)の天皇即位に伴う記念事業として県費補助を受け、昭和4年(1929)3月に竣工したという。その後も昭和45年度や平成6~12年度頃に部分改修が行われ、平成11年(2009)には雲津川に架かる巖橋が辻川山に移設・保存された。		●				
	61 大門宮山	—	大門宮山・妙徳山・辻川山の3つの小山は、遠方から望むとあたかも3匹の獅子が横たわっているように見えることから、三獅子山と呼ばれると伝わる。		●				
文化的景観 生活・生業・風土により形成された景観地	62 ビワクビ井堰	明治14年 (1881)	ビワクビ(枇杷首)疎水路工事は、天保年間(1830~1844)初期に姫路藩家老河井寸翁の命を受けて、堀米令次信発が渠工を試みるも未完に終わった。その後明治11年(1878)、多田村・西光寺村、田尻村等の水不足に端を発して再度工事が進められ、雲津川より引水・送水するビワクビ(枇杷首)疎水路が明治14年(1881)3月に竣工した。			●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
文化的景観 生活・生業・ 風土により 形成された 景観地	63	桜池（桜上池・桜下池）	大正元年 ～大正2年頃 (1912～1913)	大正元～2年(1912～1913)頃に築造されたため池。桜池により江戸時代に新田開発が進められてきた西光寺野の大部分が池敷地として消滅した。かつて桜池ではジャコ取りが盛んに行われていた。			●			
	64	大歳谷池	—	築造時期は定かでないが、元文3年(1738)に嵩上げ改修の記録が残されている。元文3年改修の102年後の天保13年(1842)に再び増築及び改修が行われている。			●			
	65	大日池	安政3年 (1856)	安政3年(1856)に築造されたため池。かつてこの場所に大日如来が祀られていたため大日池と命名された。一部に水泳用プールを造って子ども達の夏季水泳の練習場として使われていたが、現在は使われなくなっている。			●			
	66	西光寺野用水 (岡部川疎水路)	大正3年 (1914)	大正3年(1914)に完成した用水路。西光寺野土地改良区が所有・管理して、現在も農業用水路として利用されている。全長540mの煉瓦トンネルも残る(内部底面及び一部側面をコンクリートで補修)。			●			
その他	信仰の場	67	大年神社	—	大年神を祭神とする大門区の氏神で、脇に八坂神社と熊野神社がある。神社の裏山には大門宮山の森が整備され、散策できる。			●		
		68	万福寺(薬師堂)	—	万福寺は、神積寺以前の建立とされ、田原地域では最古の寺と伝わる。古来、寺僧が住したが、大正末期から昭和初期頃に無住寺となる。			●		
	民間説話・ 地名・伝承 地・屋号等	69	塩坪の水	—	お産後7日目にこの水で身体を淨めると台所仕事もできるという。大門だけでなく、加治谷、亀坪、北野、田尻などからも汲みに来たとき、お礼の意味で泉に賽銭を投げ入れる風習が昭和初期まで続いたとされる。			●		
70		大門の地名由来	—	『播磨鑑』に天台宗神積寺の「大門ノアト有」とあるように、同寺の山門があったことによるとされる。			●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

- ・平成 19 年（2007）6 月に、大門郷土史研究会により、地域史誌『ふるさと だいもん』が編さんされました。
- ・長らく途絶えていた虫送りを、約 20 年前に地域おこしの行事として復活しました。当日は、自治会役員によるたいまつ作り、行事の由来、稲作の作業等についての説明も行っています。藁で作られた実盛人形を先頭に大年神社から桜池中堤防まで移動します。
- ・大門屋台保存会を組織し、区に伝承されてきた伊勢音頭と太鼓の技術、その歴史・屋台文化を研究し、次世代に継承するための後継者の育成に取り組んでいます。



『ふるさと だいもん』の編さん



虫送りの復活